

動植物の多様性を調査

大鰐 研究者らと市民協力

沢に入り水生生物を調べる「白神バイオブリッツ」の参加者。20日午後、大鰐町



弘前大学農学生命科学部付属白神自然環境研究センター(中村剛之センター長)と大鰐町が共催する市民参加型イベント「白神バイオブリッツ」が20日、同町のあじやらの森キャンプ場で始まった。県内外から集まった参加者が生物分野の研究者らと協力し、付近で暮らす動植物の種類を確認した。21日まで24時間かけて調査する。

バイオブリッツは、市民と専門家が一緒になり、定められた範囲の生物多様性を一定時間内で調べる催し。同センターが2023

年から世界遺産・白神山地の周辺地域で開催し、これまで鯉ヶ沢町、西目屋村、深浦町で実施した。今回は過去最多の約170人が参

加し、植物や鳥、キノコ、哺乳類などの10班に分かれて活動した。

昆虫や土壌生物のグループは遊歩道を巡り、山林に住む甲虫「キマワリ」やテナントウムシなどを捕獲。付近の沢では水生生物を観察したり、山林では植生や鳥などを確認したりした。夜間には懐中電灯片手に周辺を巡る「ナイトハイク」や、わなでのコウモリと昆虫の捕獲、無人カメラによる動物の撮影も行い、研究者は集めた個体と情報の内容を次々と記録した。

初回から参加している弘前市の松山春飛さん(弘大付小5年)は「去年一緒にだった友達と活動できて楽し

い。今回は好きなカナヘビを見つけたと話した。21日は午前4時ごろから探鳥

会を開く。調査結果は報告書にまとめ出版する予定。
(斎藤義隆)

この画像は、当該ページに限って”東奥日報社”が利用を許諾したものです。無断転載はできません。